



様

佐喜川

一冊

文行堂

(都電黒門町前)
台東区上野3丁目16-4
(831) 4661

特別
イ4
3163
71





貴
14
3163
71

法と政字乃序



谷水堂支庫

去のぬきくさる備能國なるは
あらしの藤井の何そいふ
ゆきよのさくらに大塚の
かぶさるくさるわの葉乃左
はかたのたむくさる

〇三六三本

101

With the same course of the
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in

the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in
the first of the year is in

Wegre Tenooe Theren Ktunio:
iioo ee gahf ee ee ee ee ee
w ee ee ee ee ee ee ee ee
t ee ee ee ee ee ee ee ee
i ee ee ee ee ee ee ee ee
a ee ee ee ee ee ee ee ee

ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee
ee ee ee ee ee ee ee ee

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the left page of the manuscript.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a date or header.

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a page number or signature.

高の和乃ら草一―ある草の
 よもつていゝは其地にのみいぢ
 るに *Polygonum orientale* の子に
 なる理

言葉の始は草一序

秋もいづい花をかきし。きくもあゝのり。物なれり。
 そのおもひをきくもいして。物なれり。草も
 なれり。つ。たのち。やうのさ。其は
 あら。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 全あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 するのあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

からけいふふーをきこ。詞出おもつらほふ。それ
 ふーをきこまむねこ。いふーう大なるねこ入く。
 まる家の集ふきこーおつら海人のものこり
 けくをわくのらざく。よめをねあつてわつらめや
 むごつねのらむまら。まらみじうた品ふよりのなめ
 ーをきこ海の詞をきこ。ちのらちまら。ほぢいふ
 んけつ。まらまねのらぬまらまら。まらてねるびらうふ
 いひまらほーも。まらまらまらひて。はぢいねまら

ーてもかゝる。大なるまらねる。かゝるまら
 ころねくあゝ海ほーまらまらまらまら。ちの
 まら世の款人まらまらまらまらまらまらまら
 ーて。まらまらまらまらまらまらまらまらまら
 くらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 あやまらまら文章まらまらまらまらまらまら
 ちまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 てもまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら



さた草

予はあつた書の大む

予のこゝに書とさた草は予のあつた書ありて予の
世ふよきまへしきつて人してあつて予のあつた書は
さた草といふは予のあつた書は予のあつた書は予の
あつた書は予のあつた書は予のあつた書は予のあつた書は
撰集とあつてそれ予のあつた書は予のあつた書は予の
あつた書は予のあつた書は予のあつた書は予のあつた書は
たがふは予のあつた書は予のあつた書は予のあつた書は
たがふは予のあつた書は予のあつた書は予のあつた書は

みどりに申詞をたのむふまゝにわたりていふはむかしのふりた
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
さういふゆゑといふんふふふふふふふふふふふふふふふふ
たうとこのふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
此とぞひのひがごとく物ねがまきぞう

まきく月々の酒をいふふふふふふふふふふふふふふふふふ
たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ
たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ

たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ
たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ
たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ
たうた人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふ

奇れあゝむ書いと代集ぞたゞ〜かりたる後拾遺集
またやひがごとくまどや〜たゞ〜が物例しすまきま
ども河の詞花集〜たゞ〜さだぐの例しとさだぐひて
かれさうのふも何もあゝれるまきま〜をわ〜いふふ
らま〜ふいひが〜たゞ〜が物例しすまきま

さだの人にあつたはみしむ書

人に見せまわすふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
さういふゆゑといふんふふふふふふふふふふふふふふふ
たうとこのふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
此とぞひのひがごとく物ねがまきぞう

世にあらんや又さうせも世々の事とせうとてぬかひし
もかりにやうなごのいふまゝにたづねてよにたのいけい人のま
らうたりよ今此等うみの人よたぐる等のおしむ書
ふらたたんと君の祈しぬらんうの御れうらうの御
某れうのいふまゝにうらうの御れうらうの御れ
あしうらうの御れうの御れうの御れうの御れ
おのが御れ集るうの御れうの御れうの御れ
そこぬの中ふ等とまゝにうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
おらうの御れうの御れうの御れうの御れ

うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
やうの御れうの御れうの御れうの御れ
からうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
○うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ
うらうの御れうの御れうの御れうの御れ

うらうの御れうの御れうの御れうの御れ

あしむ書いしそし見あてきく、たやうにふちひして
かどきまうして三代集たどのいひてこゝろてうた
たのよきぞ見ゆるがたうわゆるわらうを今
世のそ人のなほぞういなりしてそのするがたひ
くごり、まゝいふたもいひてかたが一文をうかすところ
まふあうらいまあ人の様あやまるぞう、申してそのあ
人のしむはけうつたものにもいあめたる人のまづ
文をうたうしてそののらあてを書とすけづこ
今のそ人の文をだおひもいけぞ、それうたにまひ
がたかどきやうとのとなうとまひ、あうてたのが

とよもまてとく、いひてあしむにそまひ
ふかりのあ、あまがたまひをまふけくか
まふ、いひて

いひ、たあしむ書いしそし見あてきく、
あしむたかたに世うりせま、いひてあまを
いひ、の人もいひてあまをいひて、今の人を
いひ、あまをいひてあまをいひて、あまを
いひ、あまをいひてあまをいひて、あまを
いひ、あまをいひてあまをいひて、あまを
いひ、あまをいひてあまをいひて、あまを
いひ、あまをいひてあまをいひて、あまを

あまをいひてあまをいひて、あまを

ちのつらさあるをうらふ字に寺のうかけまき今この
 人たしは山里ふやどりつらふたじうにえうるは寺に
 こしいまどいぬと字とあそびてみるふれ山里に
 ひととあはれもほとふ寺にまうでたるをのれりなや
 ゆゑにふ寺といふはるなりきやどりつらふ寺とあはれ
 と字にあらはるふ心してたのりなり
古今集るうの意に
くらしむやどりつらふ寺とあはれ
 してらるるふにせし山あそびあはれなり
 ありこれにふれおれやどりつらふ寺とあはれに
 書にゆゑにふれおれやどりつらふ寺とあはれに
 字にふらるるをうらふたじうにえうるは寺に
 むうのこもあはれとあはれにたのりなり
 うらむるもあはれにたのりなり

言すくしむかんまき

今古集るうの意に
 くらしむやどりつらふ寺とあはれに
 書にゆゑにふれおれやどりつらふ寺とあはれに
 字にふらるるをうらふたじうにえうるは寺に
 むうのこもあはれとあはれにたのりなり
 うらむるもあはれにたのりなり

なり たる一すむむりあむまをうひくものすもあむだ
けしちにゆがもてつひぢぬまらあむまのまにさう
たるいぬまぬもぞつなき
さまじくこもつたふまなり 世もくひしれすのれしゆ
いひあむますとむひくして後れ人のあむるまむいむ
そあむのあむありたる世そのあむるすなむも雨つる日むれ
ぬまつぞもむむきたの人の雨りあむるあむるあむ
むくあむむあつるいふは世あむるあむれむたりのと
いりあむるまははむれ日むれむまむいひくもあむ
さつもうむむいなるむあむるあむるいあむあむるあむ
たるあむるあむものらむ人れあむあむるまむきあむむれ
いひあむるあむあむるあむるあむるあむるあむるあむる

あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる

あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる

古今集此等のあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる
あむるあむるあむるあむるあむるあむるあむるあむる

うりし後れみよのともむ此僧心遍照がそむいふべき
とがくはくさむふいへたそと詞のゆやあつてたうりうぶ
たの今もまねぶご〜又後拾遺集く則光朝臣の
まといみらの國よりそとつてといひ父の〜とに誠後よ
ま〜りて〜といふも回ど〜

一、二、三、の例

拾遺集二月叙位の法あるをた人こゆいあひて子言
ふとゆい〜とい侍々ふ六位ふ侍々ふは
松平ふいん人々合あひ〜神のみぞ〜いみりゆら

伊勢御の家集 あり大納言のぬれひえ坂もふおくとを
いふあ〜い〜お〜〜は〜りてあ〜らる〜ん〜や〜ら〜れ
た〜ら〜る〜あ〜ら〜れ〜つ〜け〜ら〜る〜音〜羽〜川〜の〜淵〜ら〜ど〜様〜〜ら〜ら〜る
音羽川きた今おは流つせふ人れ心の見えまする〜か
清心家集 ひとと〜い〜ら〜る〜人〜に〜た〜ら〜る〜ふ〜あ〜ひ〜ひ〜ら〜れ〜ど
い〜ん〜た〜ど〜と〜あ〜ら〜ふ〜せ〜ざ〜ら〜ら〜る〜ん〜月〜を〜お〜ぼ〜ら〜る〜や〜り

梨つ〜ら〜る〜る〜る〜月〜を〜ま〜は〜ん〜心〜や〜ま〜〜き〜と〜ん〜み〜も〜あ〜れ
〜ゆ〜ら〜る〜の〜剣〜と〜あ〜ら〜る〜〜子〜日〜の〜平〜と〜あ〜ん〜と〜い〜ひ〜は〜な〜に
や〜ら〜れ〜ゆ〜〜ら〜ら〜る〜あ〜ら〜ふ〜あ〜ら〜つ〜も〜ら〜る〜い〜ん〜ら〜ど〜と〜い〜せ〜ざ
〜ら〜ら〜る〜〜た〜ら〜ら〜る〜い〜ひ〜と〜け〜り〜た〜ま〜ど

音階川の事月此の六位の事なくしては是に袖のみぎり
とひおし川せ入る事すまのいんもなるを其月とい
はがうしなけまだたらうの世の事後ひるなり又伊勢
物後く男まきくわたるめいぶぬのすそとたつてうさ
かぶしてさるる事いことまはぶがの世の事いぬを
かひのいひくみざれそありしつふまとのせたるも
回らふはらるる

某とふうしそと某と見えす

とらうしそいもらめはら

と川原とよか

待人のほりぬの袖のうさなく声れら

きうふ原のうさうとまきしてさる

うたふとさひいぬてめいぬはらちていれ秋

と都くおれらうさうとよら

あさうし書のうさうさうとまきしてさる

あさうし書のうさうさうとまきしてさる

音うのそんかひいぬ道うわわほいなるもたうさ

こまゆんこれこれ古今集うさうさうたの某とようさうい

またたえその事とらうさう某とまきくまてい

見えして思ふらうさうとまきくまてい

出づる書物も多き事と云ふべし此集の書はれれど此等の
書物にせいふはひきくするおしどなき事かかき
去りぞ何れなるさてつねにいふん古今集のいかに
とめたる書物も後撰集のいふとめたる書物といふ
中れりて書物のいふとめたるをみる又のいふ
たじやうにいひきくたる書物も此のいふと思ひ
くらぶふ今かんと後撰集のいふとめたる
たうんぞゆきふゆきふ今人の書集はあつた書
たじやうと後撰集の書きとゆふたう

同じやうなる書物もあつた事

いづれかよんたう

古今集さうれむのちりたる事

いかなげむとゆきふさうむん

たじやうとさうのむりたる事

むさうのえりて書物のいふとめたる

飛ん 書物のいふとめたる

さうのむりたる事

とらん 揚れたる事

書物のいふとめたる

とらん 又因集に書物のいふとめたる

本づくんぞおのほれくちのたをたまふおがせし
あはれなるん 昔れむの本としてつげたる

志取しなふ昔むもつねうらひすのあしこれちか
花さしねくはあされどとるんしとめの様のさび
みかちのねとひんたまむあしむ書も回しあぶらと
うたさるんたるそのはさくすうづかしたるみくさる
うらさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
そふむとふれむはく回し事なまてらるし
おろしやうたはくさるし

その詞とが書

ゆらうまし人のたまなるきふもこしむ書れそのすふ
もし末はごふく事もあつらひくも去はるるなる
かどもかたりそれるるなむさりおるもそれるの
むひある詞又も今れさうけくさるはつたなり
もし末はごふくもあつらひてさりおるもひある詞
かたりとれ事なり いれいこしむ書れそのすふ
かむさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
うらさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
そふむとふれむはく回し事なまてらるし
もし末はごふくもあつらひてさりおるもひある詞
かたりとれ事なり いれいこしむ書れそのすふ
かむさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
うらさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
もし末はごふくもあつらひてさりおるもひある詞
かたりとれ事なり いれいこしむ書れそのすふ
かむさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ
うらさるんたたりはぎぬる昔のすれあしむまこ

金葉集に源朝家
かこのやうなる人なり

みせられたり侍たるをまゝにまゝにわらへしは新しき事なり
 うららるるに世をわたりてつらうたるに世をわたりてつらうたるの
 ことなり
 なしたるぞかたじけなく
 男がうららるるに世をわたりてつらうたるの事なり
 まれど又曰集海の事なり侍たる人れは久しき事なり
 なまじき事なり
 たりなれどもいと二三百の事なりかたじけなく
 浄時より紀元なれと作らまはれど五田川よりなむたが
 ねといふ事なり
 こと後撰集よりいふことなり
 たの事なり

うららるるに世をわたりてつらうたるの事なり
 舟の事なり
 こと後撰集よりいふことなり
 たの事なり
 うららるるに世をわたりてつらうたるの事なり
 舟の事なり
 こと後撰集よりいふことなり
 たの事なり
 うららるるに世をわたりてつらうたるの事なり
 舟の事なり
 こと後撰集よりいふことなり
 たの事なり

こと後撰集に
 こと後撰集に

うらやまは流りいかりなるはす川津きをさうく
なすうもふかれ言あすのゆであらうに瀬がくさ
い此河す川瀬が流る世たわやまおひそそん人
のすまふといふ言事ゆをまわれの世の人あす川
の瀬がくさうもふいけいんふ世れといふ人のいあ
事ふまはるふいひくもそれ事とまらたうりさして又
ふれあらとて詞をうらうかろ事いゆの後拾遺集
橋を過すはふらうたあも此れと云はふはつらふ
ゆまのねと人といへたこえんたじらまをゆり
きるといへたあも此れねいそまを故人いけいといへ

うらやまは流りいかりなるはす川津きをさうく

人はいはける詞とく事

人のいはける詞とく事のたふのする事いゆのいあ
るこるたじらあゆいけいんふ世れといふ人のいあ
らうの瀬がくさうもふいひくもそれ事とまらたうり
初瀬はまら流るおひそそん人の家へいへくやうで
かぐこのらにうらわれはあはれいけいんふ世れといふ
やういあらしいゆてゆりかたそらなる木をたて
人といへるいけいんふ世れといふ人の家へいへく
ゆりかたそらなる木をたて

まほつ子にけしあま産あつどのいへる詞にねがうく先ど
貫之ぬのまにけくさる詞のまぎらぬおつどたる
たりのさて又やどつとらへていへるまよき詞とある
これ貫之ぬおむいへるまよきいふゆづくやどつぬを
いへるまよきばをけつひし詞のゆつとたぐんく書つる
ぬのこれも例あつるにけし後撰集に女のまよきいり
たつふまや人の神のまよきいへるまよきいあるも女此詞に
わつりたつていへるいへつら又つ詞のまよきいへる
古今集にまつていへるまよきいへるまよきいへる雨のまよ
くつばつむいへるまよきいへるいへる後拾遺集に月あつ

侍のまよきいへるまよきいへるまよきいへる侍のまよきいへる
たどいへるまよきいへる侍のまよきいへるまよきいへる
人の詞といへるまよきいへるまよきいへるまよきいへる
まよきいへる後撰集に女のまよきいへるまよきいへる
けしまよきいへる世の中此人あつるはまよきいへるまよきいへる
まよきいへるまよきいへる侍のまよきいへるまよきいへる
たどいへる

題とく事

そは頼いいへるまよきいへるまよきいへるまよきいへる
川とあけまよきいへるたつる日露洲とたつるまよきいへる
頼つてまよきいへるまよきいへるまよきいへる後撰集にたつる

家として運これ歌を所ぐりて言ふ人多く不惑といひ
いざとえそくしりあはるる今の世に言の類より
されど昔の類より此言いしくまじなり又拾遺集の序
末とて書に摩義公の家としていふる言此類の本事とて
にみしる言くもむ此言の忠も又くさむ此中のよる
忠もいづる言たれ今人の類といふものいす
あつてそととらとていざ言ふいづる言とてい
むらに忠の言ときてあまを題していふん
たふとて伊豫物語とか野とていづる言の川はなり
ふいづる言とていづる言に同いづる言に類とていづる言

舟遠云

古今五 類
あつてそととらとていざ言ふいづる言とてい
むらに忠の言ときてあまを題していふん
たふとて伊豫物語とか野とていづる言の川はなり
ふいづる言とていづる言に同いづる言に類とていづる言

いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言

あつてそととらとていざ言ふいづる言とてい
むらに忠の言ときてあまを題していふん
たふとて伊豫物語とか野とていづる言の川はなり
ふいづる言とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言
いづる言に類とていづる言に同いづる言に類とていづる言

ありてはしりしあまきとてやけあぞさゆりし

繪かけのさかばねをそとふらる

三子此あしむ書

あしむきたるを題してさるる三子此あしむ書とて
ろくにぎぬあはれきづくにふたに例どもこゝろ出たるる
をみてあしむし古今集三条后の東宮のさやすあし
申ふる時し清屏風したつて川くもりをたかかふる
とさあつたる紙巻をそとふる「藤子院の清屏風の絵
ふ川くもりをそとふる人れそとふるのちる本れしふとていへ
きたるをそとふるせむいかなむつとさあつたる「田村の清

時に女房のさやうひして清屏風のよはらんどあつふ
籠おらるるあつあつしりあまき紙額をそとふる
さふら人にたかせられぬまはらふる「屏風のよはらるるむね
をみる「屏風のよふふみあはれせむくうたふる拾遺集
冷泉院此清屏風のよふ梅のむほる家まらるるむね
まらるる「斎院の屏風のよふらあつ人ある「天曆
御時清屏風のよふらあつ人かふる「あま小野
宮大旨家の屏風のよふらあつたつ「都此あつるか
あつに「藤義を此家のかあし秋の月あつらふ池あつ
家ある「新院の清屏風のよふ十二月はらるる「あま三子の

内侍、繪此賀の屏風、松の海、記ありたる西と「粟田
右大臣家此障子に記きたる被」たる西、ゆみひく
りてかたう所「園鞆院の御屏風」たる西と「まうり」たる
取、ゆがたうり、お男たてり、お女、清時清屏風、
七月七日のよ、琴ひく女、河の仁和の御屏風、よ、養老かたう
おふ新ふく、後拾遺集「まが」所、あら、お人の居る所
繪、か、あら、と、新恒、家集「女ど、まう、民を、見つ、まう、れ
は、ひ、野、く、小鳥、が、り、ま、田、く、り、ま、ら、ち、る、貫之、家集
とん、が、ま、山、寺、に、ま、う、た、る、人、家、く、女、ま、の、庭、お、出、て
梅、む、と、ん、又、し、く、お、ま、る、を、と、ん、る、院、の、お、ま、り、に、人

ま、く、み、る、女、だ、も、む、れ、わ、く、秋、の、む、れ、ち、る、紙、か、を、り
「旁、山、と、こ、ま、り、う、ま、り、ぶ、ま、り、る、お、又、か、ぎ、せ、り、も、あ、り、」人、の
家、此、す、ま、の、り、く、お、女、出、わ、く、く、垣、の、ま、り、お、ま、り、く、ま、り
て、ま、の、り、ひ、わ、り、垣、の、は、ら、に、す、た、ま、り、く、秋、の、風、秋、の、葉、
と、く、元、日、人、の、庭、ま、り、ま、り、ま、り、あ、ま、り、ま、り、あ、り、の、庭、の、
う、ら、に、り、の、あ、り、は、庭、お、お、り、く、ら、て、梅、の、花、を、み、る、男、女、お、
り、く、に、む、ま、り、る、西、と、再、に、の、り、て、ま、り、お、人、あ、り、お、ま、り、
び、と、り、て、ま、の、り、く、ま、り、お、り、の、り、ま、り、お、ま、り、と、ま、り、を、
ま、り、く、く、似、ま、り、る、女、の、お、り、を、み、る、人、の、お、り、と、ん、か、す、ご
ま、り、お、ま、り、く、海、を、み、る、と、ま、り、お、り、の、中、ま、り、く、老、る、女

あり順家集「秋の遊ふいろくれむもをらみまぐら林の
よしにあやぶ人河原鷹すきる人まありかくあり出
たる中に家集「たのこも大さうね屏風の絵入り
みく集りいそれうしけ下りふしひなきそあるとあり
またうぶきく出らる所のさあはるそをみるん
お不さまでおるうさむめりハクせんそまう一つ

月日紙がき書

すれ月がりの紙がき書にいひくもあうんをえむいかな
らん「たのあらむひ」をいおげりたをえむいかな
なりのゆきとほけりりもきやれ 今すしきくそくしひく
かりたきと紙がき書なり

くろん「はむ月のほくら紙 又かつや 月れ月れきら

げり「あをほれつごり紙 又かつや ながかぶん 後拾遺

やういの月しつあまきでこと月しつあまきで又新古今集に
かな月のつららむとあつらに紙がき書とほけりりもきやれ
つららむとあつらに紙がき書とほけりりもきやれ
旬のことつごり紙がき書とほけりりもきやれ
又む月がは十日づりり「あ月の十日けりり」をえ
すれ志の十日づりりもきやれ
又む月の十日あまきりみね
月れ月れあまきりみね
かぶきりりもきやれ
とやんにかいひ紙がき書とほけりりもきやれ
まぐらたて十日あまきりみね
あまきりりもきやれ
月日紙がき書
む月日やういつらたがやんかぶん 又みまねいつら

乃日まはききくともんけりて十日ふりのくらひ十日あきり
ひくは甲くふたんひふ人のそのひびがりあはれどさてい
そふぶくろりて我これ文のさぬうりまさをのい申若の
文は九月十日又廿八日たじやうにかたきあり 十五のこ
つ
しやうにえたる事もふたれそのふこれまてそしたりの順家集
ふも世のいひは文林野のまにこり後て後冬の中風をうかりその
こどもをのうたぬの書かめえさふおろりつとありそれだふまは
そこの文のさぬうりまさをのい申若の
らきき初づりいかりはこれさて
きふたが人ありそあつさめし さりの字音は倍たまきで申
昔の法いひたうまきりたるまてさる事いさて 阿のたん 古今集
に若年
の時時たぬはれお人にさやゆぬを乃こぞふまてとあるは 墨部
大人のさるるやうこいしなぬは日の暮し阿のしと日とうけし
おとせうしをいふんさふさうけらあつたぬやうふのいひし
そこの法はふ同じくさるる初づりてそれきあはれりふのいひさるる

かまでもいふは日とつり成をききくいふと いふ事申むりよ
い
例年一なぬの月乃暮いふむいふりなぬは いふ事申むりよ
い
わつたる又同集にまぬは いふ事申むりよ
い
乃この曉とつひたるん いふ事申むりよ
い
暮もかきり西のあつたす いふ事申むりよ
い
つらうつ いふ事申むりよ
い
ここのにのこひを いふ事申むりよ
い
あをいふ いふ事申むりよ
い
のつ いふ事申むりよ
い
ここの

そはぢふも詞とるあま

そにたむをたが いふ事申むりよ
い
ぢふ いふ事申むりよ
い
ふ いふ事申むりよ
い
あ いふ事申むりよ
い
あ いふ事申むりよ
い

女ながらはこころの橋の花はしと折しりり
枝を折てしれそこれむし見らるんよと
河うさしだ
こころ君

我やよのなげきのまもちるけしふふくともねと
くんでと見ん又のふこあらむせらやうにそあうで
つねよの思ひなる人よそらむしあつる同集すまひの
ふりあふれ此書はこころを今えんしと折てあつれ
みこのむぎにますそく

三余右大臣

をみえんむの名なうぬあまふ何とそ君がむぎ

しむせんし事出家れむすふせう世こころえん
侍多か女れたあふむぐりしむむゆるさぬあひ
かふたしん侍多

志多しれ中しむる例

拾遺集「延喜の御時宣旨よそなむる言れ申ふ
菅家万葉集此申ふ」而そ言れ申ふ「あまこの言はり
ずふかけら申ふ 千載集「皇太后宮大夫俊成十首の言
ふみ侍多時をみそはうり」中に月れ言

あつるあまの言れつらねやう

ねつるこころの言かばくはしんをよのふうれつらねあふ

まづ未だ書して字をあらうはきふうとひききふを
 去れ一つさい又うけうとをあらうつづまかしてさう
 魚一様をむくあわさるか此がう又う人ひとをひら
 ぐふおれたつねゆきべー信州家集より又う人ひとをひききふ
予ニそあるあはれはきむる印のりい
とがう小大君家集小さかける要あり
 おくた書れさぬあうあうあうにふ集にんえうう倒人の
 とみけうう字紙をうていあう人一日さかして
 うけううがあをあらせう又たのが人ひとをひききふ
 を去れうとせうておれう人ひとあうあうかへ
 かきて人ひと字紙をあらせうもあうあう又人のととたう人

考してこれづおにうけうう又う人ひとをひききふ
印またあうう又うあう人ひとあうあう例もあう

むをさたてしす

今れさうび言こむをいけうとひききふとむうむをさ
 とひききふのさうううとあうあうあうあうあうあう
 さう又拾遺集れさうびうとあうあうあうあうあう
 けうてあうあうあうあう古今集にさうあうあうあうあう
 まりあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
 かりあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
 古今集あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
 おれあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

ひしし今人のものついでにあらはるるに
今世のゆゑにあやうたことものついでにあらはるる
おかげもゆゑ古今集あはれそ人としんか
らゆら **おとよ**のわく **おとよ**の人 **おとよ**の
これ貫之の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
人 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
た **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
る **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
あ **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
お **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
女 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
ア **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の

た **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
は **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
お **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
思 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
人 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
人 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の

字音の誤ふところある事

人乃 **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
を **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の
の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の **おとよ**の

うい伊勢物語よりやしてさびなるうたを母なるをこのうた
るれどかの物語なるいさしてゆい國と申ど先ぬま事ゆき
あづまのころやいり作らたわはばにりり出するをたふ
集の例をみるひしやうるぬ事をとるん——古今集
朝がらの人れ國へゆりあたるふある「阿のひ」さてゆき
人乃あづまのうえまらわたり紙あるとて「みられ國へま
つりける人」にふみてはりり「藤原」此まき墨がむじの
すもれまらわたり時とたわにあり板とこゆきとあり
友れあひまらまらわたり時とたわ「後撰集」あひひ
て侍なる人のあまれとてゆりあまらむれど「阿のひ」まらわ

まら人「阿のひ」まらわたり友だらと「志札のくま
まら人」に志の事ふまらわある如に拾遺集「阿のひ」
ゆりあたる人れまら人「まらわて」かまらけまらと
阿のひ「まらわ」の例なりた「小大君家集」にみるまらまら
人のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
阿のひ「まらわ」のまらまらまらまらまらまらまらまらまら
阿のひ「まらわ」のまらまらまらまらまらまらまらまらまら
又「まらわ」のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

とやいありれいといふはまじけふかたがむと思ふ
ふこれいこしおんせまへのえんぞとありとねむさし
ついでとらけいせむらうぞありし

ついでに

古今集のいんちんつがよろしくありまうて秋のむすび
おんみらついでにまむる「庭と秋の野」はくありておん
おんちんついでにまむる「藤原は後蔭がむすび
はくいんちんついでにまむる「まむらふうへのをたて
おん酒さびむらはついでにまむる「おん御時入のま
らひよくをのこどもに大御酒たまひておんみらをむ

ありついでにまむる「後撰集」兼輔朝臣宰相
中將より中納言となりて又のまむらうのかくられ
おんちんついでにまむる「おんついでに「おん
おん琴をとりておんすついでに「おん例もとんて
おんいんちんついでにまむる「おんやまらふまよさうぬ事
もついでに「後撰集」末崔院のまむらう「おんまむらうた
たらまむらう五月げり御書祈しおんありておんた
べくられまむらうまむらう

おんちん

古今集に「おんちん」にまむらうぞらる「おんちん」にまむらうぞ

石山いしやまのまうでまうでのう時たどみまなる神のい社又い寺をど
ろろのあままはは社いをうやままひひくまううででいいる
たたりり今いももままれれふふとといいままううででとといいべべくく来きりり
るるのの江え戸うににいいくくままささいいひひくくまましし

あひび

ふふららにに撰せん集しゅうののああととをを書かににいいひひびびとといい人にん記きとと撰せんくくははら
ひひららりり古こ今けい集しゅう又また此こゝ所しよににたた人にんややるるままたたななくくてておおひひひひとといい
ふふららいいびびとといい女にょれれとといいああままををささららるる「ああひひののままりりるる
人にん此こゝややうう屋やくくままじじとといいふふななりりああままああひひびびににややけけららああれ
ととににああままををささららししててははりりとといいせせららるる「ああままああひひびびののままをを

いいふふららいいかかつつののややらられれ後ご撰せん集しゅう「秋あきややままななりりるるああ
ままああひひびびにに存ぞんののつつててままりりままれれをを
ああつつののままここふふすすみみははげげららああひひびびににああままいいたたまま
ををぬぬりり起おこるるれれああままああひひびびののままををささららるるままののままををささららるるままののままををささららるる
人にんのの文ぶんののああままああひひびびががままををささららるるかからららら

あひび

今いま此こゝ類るいのの秋あき月つき花はなををままいいるるのの漢かん語ごななままががままとと
ここりりににいいくくたたままんんままたたままももああままああひひびびににああままいいたたままををささららるるままののままををささららるるままののままををささららるる
ああままああひひびびををままいいるるののままををささららるるままののままををささららるるままののままををささららるる
ああままああひひびびををままいいるるののままををささららるるままののままををささららるるままののままををささららるる

の月とて所をびてよみ侍るこいひ又同集に宇治
よき人こまみぢとてありふ心然らみ侍るこい
たどむが事なり後拾遺集の法いやと漢語とをげく
はくふゆゑとれたのうろあこれ初もかう言のゆゑにう
まるつふいさぬまじけうさるかしてよみたるを紙か見
かろひう

いり

むし此書とむ書についあはるるまんいりこころとあふ
とと云ををいりていりぬり又山川いり此たかま
くろ紙たどむいり山川いりいりあふるたよ

信

古今集に信といひ初すぬく後撰集いりやうくに
いり
古今集に初といひ多信とかけら後撰集
にたかまむたかまといり 物撰ゆと
いりふれを伊勢物語いりたかまふののあふり
源氏物語いりといりいり中昔の信もいり
ふあせいにやうくまげくはふりなむるあふりや
まひてむらきあふむ書たかまはむ初むつあふ
古今集たかまのやうにまねとそのいりかろいふあふ
事いりこころ後撰集ははふいさあふりかろいり
る事いりあふむ中むいりははやうくにいりかろいり

又人ふむいひおそくもみけりけるなれ人いそきたの
人ふうたてく見すりふ汚人いひかきまじくくれも二
のやうくもれたりかへいひうたてくおほいたりまじく
えんせいひくゆきまじりさるはあがするふゆとつた
つりいんとあふうふたよりさそく又人ふおせさるぬの
中ふあつてれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
ふりもたれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
かぬるゆりたれどあそび書せすていよたれうけし
をりたむい志りくこのまへへ清り人いふるまじやうに
つきたたむえきたまじてもおせさるまじりたあはれ

かへいひうたてくおほいたりまじく
えんせいひくゆきまじりさるはあがするふゆとつた
つりいんとあふうふたよりさそく又人ふおせさるぬの
中ふあつてれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
ふりもたれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
かぬるゆりたれどあそび書せすていよたれうけし
をりたむい志りくこのまへへ清り人いふるまじやうに
つきたたむえきたまじてもおせさるまじりたあはれ

○言高まじいしよかめいひあつたて集のあそび書
をみくつらぬらゆりいひまじりたあはれ
をものふうたていひくたてりさるはあがするふゆとつた
つりいんとあふうふたよりさそく又人ふおせさるぬの
中ふあつてれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
ふりもたれ人いひくたてりもぬの中ふうたてやえん
かぬるゆりたれどあそび書せすていよたれうけし
をりたむい志りくこのまへへ清り人いふるまじやうに
つきたたむえきたまじてもおせさるまじりたあはれ

あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の

あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の
あついでにひいたるちりたてしるんせう持こ家の

享和此をせりい年此きりたのやうに思ふ人ぬ

吉備の山人

藤井高尚

松屋大人著

消息文例

全部二冊

此書を雅言の消息みづか
へきやうをいふへの例を引
いて、あく教ふる事なり

文化三年丙寅三月 發行

浪華書林

奈良屋長兵衛

河内屋儀 助

京都書林

蛭子屋市右衛門

京橋書林

至子屋市

家華書林

河内屋新

奈良屋長

文行三年丙寅三月發行

全書二冊

消息文例

津屋大人著

二冊一冊一冊一冊一冊

一冊一冊一冊一冊一冊

一冊一冊一冊一冊一冊



